

豊かなスポーツライフを実現する資質や能力をはぐくむ保健体育学習

— 仲間とともに学び、伝えあい、深い学びにつなげる授業をめざして —

徳島県中学校体育連盟

藍住町立藍住中学校 教諭 近藤 俊一郎

1 研究主題について

新学習指導要領の方向性を見据え、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進、カリキュラム・マネジメントによる教科横断的な教育課程の編成など、教育の質の向上に取り組んでいる。

新学習指導要領では、これまでの課題を踏まえ心と体を一体ととらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」を育成することを目標としている。

本県では、新学習指導要領の主旨を踏まえ、平成 30 年度・令和元年度の 2 年間、主題を「豊かなスポーツライフを実現する資質や能力をはぐくむ保健体育学習」、副主題を「仲間とともに学び、伝えあい、深い学びにつなげる授業をめざして」とし、研究を進めてきた。

2 研究内容及び方法

(1) 県・各郡市での取り組み

本県では徳島県中学校教育研究会を中心に研究を進めている。16 郡市の中から、1 郡市が 2 年単位で研究地区に指定され、実践発表を行っている。また、各郡市に中学校教育研究会が組織され、県の研究主題に基づき、各郡市でテーマや単元を設定し、実践発表を行っている。

(2) 小・中・高における系統的な取り組み

(1)の他に、本県の 4 つの体育連盟(小学校体育連盟・中学校体育連盟・高等学校体育連盟・女子体育連盟)を中心に、徳島県学校体育連合会が組織されている。本会も 16 郡市の中から、1 郡市が 2 年単位で研究地区に指定され、実践発表を行っている。小学校～高等学校までの教員が参会し、校種の垣根を越え、保健体育の研究を系統的に進めている。

3 実践報告

実践事例 1 石井町立石井中学校 第 3 学年 球技「バレーボール」

(1) 目的

これまで体育実技の単元ごとに、個人のワークシートを用いて目標・感想・自己評価などを記録していた。自分自身の取組を振り返るには、十分な効果があり、生徒にも定着していた。しかし、今回のテーマ「豊かなスポーツライフを実現する資質や能力をはぐくむ保健体育学習～仲間とともに学び、伝え合い、深い学びにつなげる授業をめざして～」に照らし合わせて考えると、自己評価や振り返りはできているが、仲間とともに学び、伝え合うということができていないという反省に至った。そこで、習慣付いているワークシートを生かしながら改良を加え、自己評価や活動を記録するだけでなく、仲間からのアドバイスなど、他者からの評価も書かせることにした。

また、仲間の動きを観察させ、「伝える」ための表現力と自分の考えたことを「書く」ための表現力の 2 つの視点からアプローチすることによって、「仲間とともに学び、伝え合い、深い学びにつなげる授業をめざ

す」ために、より深い学びにつなげることができるのではないかと考えた。

(2) 授業形態の工夫

授業にアクティブ・ラーニングを取り入れ、仲間とともに考え、学び合う授業をめざすために生徒同士の教え合いの場（アドバイスタイム）を設定し、仲間からのアドバイスや関わりの中から課題を発見させ、他者評価から自己評価へつなげることにした（図1）。

ICT を用いた授業を展開する一つとして、自分の動きを客観的に見ることは、技能の上達や習得へつながる。仲間の動きを観察させ、アドバイスすることは自分の動きを客観的に見ることに近いものがあり、そのことを人に伝えることによって表現力を向上させ、自分自身の技術の再確認にもつながると考えた。アドバイスタイム終了後、仲間からのアドバイスを受け、自己の課題を認識させ、再び記録に挑戦するチャレンジタイムを設定した。



図1 アドバイスタイムの様子

(3) ワークシートの工夫

昨年まで授業の単元ごとにワークシートを用いて授業を行ってきた。生徒は自己評価や活動を記録し、授業を振り返ってきた。自分自身の記録を確認することで、自己の体力の向上や技能の上達が可視化され、意欲的な活動につながっている生徒も多く、定着している。そこで、昨年までのワークシート（図2）に、実践①での仲間へのアドバイスやそれを聞いての感想を書かせることにした（図3）。そうすることで、仲間からの意見や自分の考えをまとめることができ、仲間伝える表現力だけでなく、書くことの表現力も同時に高まると考えた。

月日	サーブ	ハース レシーブ	得点	チームの仕事	自己評価
6/24	3回できて 2回失敗 した 1/3	アンダーはオーバー よりも得意らしい。 けこうできた0	1点	点つけ。 ボールを とりに行く。	ボールがきてもとれるように常に かまえた。でもとんでくると ..少しビビってUまう。

図2 実践以前に活用していたワークシート

	基礎技術	回数	今日のチェックポイント	アドバイスからの改善点や感想
		例	足を動かしてボールの下に入る	ボールを高く上げる。続くようになった。
5月 17日	オーバー	4/2 2/3 回	高いところから来たボール を上に手で上げる	①ボールを真上に上げる。 ②アドバイスを思い出せばから と1回多くなった
	アンダー	4/2 1/4 回	低めから来たボールを 水平くらいからうつ	①ボールを高く真上に上げる ②アドバイスを思い出せばから ると3回多くなった。

図3 実践で活用したワークシート

実践事例2 神山町立神山中学校 第3学年 健康な生活と疾病の予防「がんの予防」

(1) 目的

研究主題は、「豊かなスポーツライフを実現する資質や能力をはぐくむ保健体育学習」である。特に、研究主題の「豊かなスポーツライフを実現する資質や能力」の基盤となるものは、「健康と体力」であると捉え、

「生涯にわたり自らの健康や体力を適切に管理し改善していく資質や能力」を育成することが必要であると考へた。がん教育を推進するにあたっては、生徒の実態や教育課題を踏まえ、特に令和3年度から全面実施となる「新学習指導要領」の方向性「社会に開かれた教育課程の実現」や神山町健康づくり計画「～夢・元氣・笑顔～健康かみやま 21～」の取組と関連づけた上で、本校の研究テーマを定め、学校がイニシアチブをとり、関係者（保護者・地域・関係諸機関等）が連携や共通理解を図りながら、同一歩調でがん教育が推進できるように取り組んだ。

(2) 社会に開かれた教育課程の実現に向けて

学校がイニシアチブをとりながら、関係者それぞれの立場や専門性を有効に活かしながら生徒に多面的で豊かな学びを提供できる協働体制を構築する（図4）。そして、生徒の知の統合化を図り、実践力を育成しながら個別最適化を実現する。

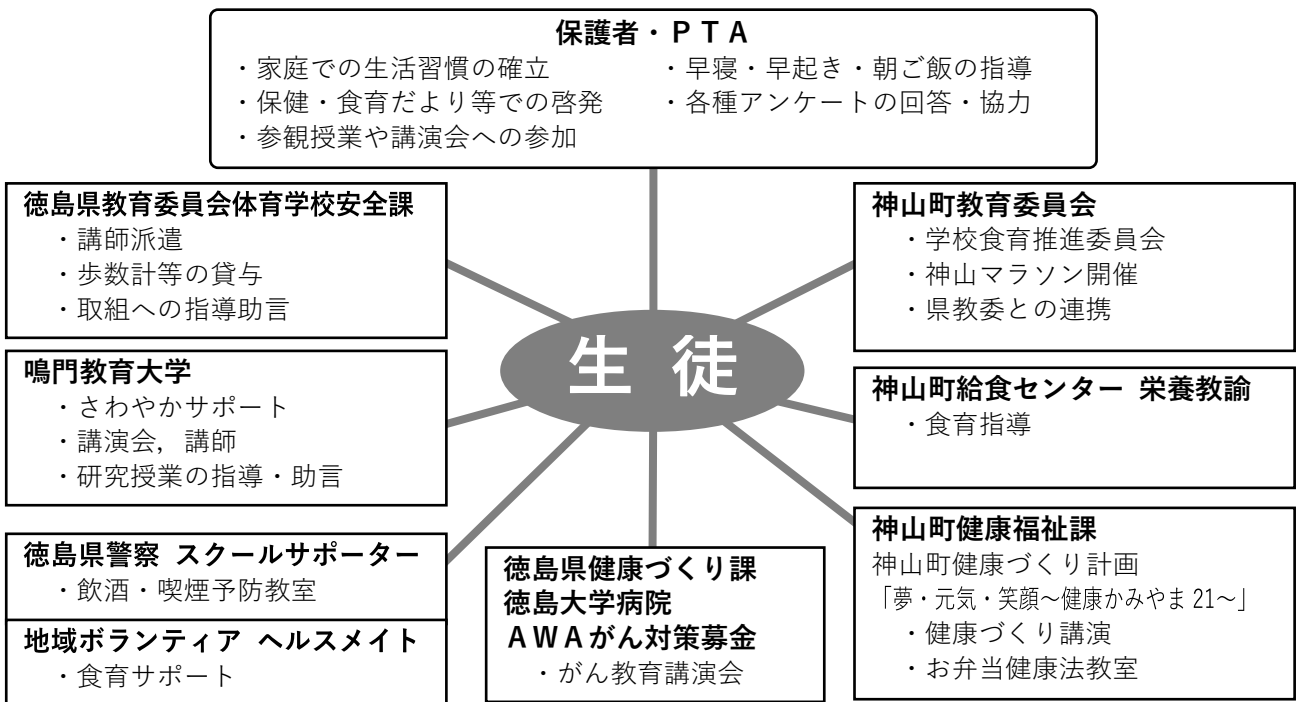


図4 保護者・地域・関係機関等との連携

(3) がん教育の概要

本実践では、がん教育の4つの視点の内、「3. がん予防に関わる教育（生活習慣・運動習慣・食習慣の確立、薬物乱用防止等）」に焦点を当てて行った。

- 1) がんについての正しい理解
- 2) がん患者に対する正しい認識
- 3) がん予防に関わる教育（生活習慣・運動習慣・食習慣の確立、薬物乱用防止等）
- 4) 命を大切にす教育

【具体的な取り組み内容】

① 規則正しい生活習慣の確立

- ・家庭との連携・協力 「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底
- ・保護者へのアンケート調査
- ・「保健だより」による家庭への情報提供と協力依頼

② 継続可能な運動習慣の確立

- ・「歩き愛活動」歩数計の活用によるウォーキングによる運動習慣づくり

- ・「階段ウォーク（昇降運動）」による体力づくり
- ・「神山温泉すだちマラソン」への参加
- ・各種駅伝大会に向けての全校体制での取組
- ・体育授業での体力・運動習慣づくり→授業導入部で体力トレーニングの実施

③ 栄養バランスの良い食習慣の確立

- ・神山町健康保健課のお弁当づくり教室
- ・町給食センターとの連携（バイキング給食や生徒が考えた給食メニューの実施）
- ・栄養教諭による食育指導
- ・「給食だより」「食育通信」による家庭への情報提供と協力依頼

④ 外部講師の招聘・・・専門的見地・立場からの指導とその内容

- ・5月20日（全学年）携帯スマホ安全教室（ドコモショップ職員）
「ネット社会の現状とネット依存による生活習慣の乱れの防止等について」
- ・6月3日（全学年）薬物乱用防止・飲酒予防教室（県警スクールサポーター）
「薬物乱用や飲酒・喫煙の悪影響やそれらとの関わり方について」
- ・6月20日（3年生）生活習慣病予防教室（町健康福祉課職員）
「神山町民の健康の現状と生活習慣病の予防について」
- ・7月2日（全学年）がん教育講演会（徳島大学病院医師）
「医師の視点でのがん予防等について」
- ・9月13日（全学年）さわやかサポート講演会（鳴門教育大学教授）
「正しい生活習慣・運動習慣・食習慣の確立について」
- ・11月21日（全学年）いのちの学習（AWAがん対策募金理事）
「がんを経験された方の話を聞いて、自分の生き方を考える」

4 研究の成果と今後の課題

(1) 球技「バレーボール」

生徒間で教え合いやアドバイスが生まれることによって、球技が得意な生徒だけでなく、苦手な生徒も生き生きと活動できるようになった。「先生、今年のパレーおもしろい。」という声も多く聞かれるようになった。仲間とともに学び、伝え合うことにより、保健体育科の学びが深まるだけでなく、生徒同士のコミュニケーション能力を向上させ、学級や学校生活での自尊感情や自己有用感を高めるために大いに役立ったと考える。この深い学びを全ての単元で達成できるようにしていきたい。

(2) 健康な生活と疾病の予防「がんの予防」

今後がん教育の推進を本校の取組の軸として継続して取り組み、生徒が健康に対する意識を高め、将来にわたって健康でたくましく生きていける力を育成していきたい。また、全校を挙げて社会に開かれた教育課程を実現し、地域や関係機関等とのよりよい連携のあり方を模索しながら、生徒に多面的で豊かな学びを提供し、生徒の自己実現や成長、生きる力の育成に寄与できるように取組を進めたい。今後がん教育の推進を本校の取組の軸として継続して取り組み、生徒が健康に対する意識を高め、将来にわたって健康でたくましく生きていける力を育成していきたい。

全校を挙げて社会に開かれた教育課程を実現し、地域や関係機関等とのよりよい連携のあり方を模索しながら、生徒に多面的で豊かな学びを提供し、生徒の自己実現や成長、生きる力の育成に寄与できるように取組を進めたい。